

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第20回運営委員会議事次第

- 1 日 時：令和8年3月3日（火）12時15分～13時00分
- 2 場 所：ビジョンセンター東京虎ノ門 5階502会議室 および オンライン（Zoom）
- 3 出席者：別紙のとおり

4 議 事：

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 株式会社日本総合研究所の入会について……………資料 1-1~1-3
- (2) 巨大災害研究会の特別会員入会について……………資料 2-1~2-2
- (3) レジリエントライフプロジェクトの特別会員入会について……………資料 3-1~3-2
- (4) 東急グループ内の参画機関変更について……………資料 4-1~4-4
- (5) 令和8年度以降のコンソーシアム運営体制について……………資料 5-1~5-2
- (6) 有識者会員創設及び審議手続きの整理について……………資料 6-1~6-2
- (7) 令和8年度活動計画（案）について……………資料 7
- (8) 令和8年度キャリアマッチングデーの開催について……………資料 8
- (9) Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2026 セッション企画について……………資料 9-1~9-2
- (10) その他

【報告事項】

- (1) R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム（3月3日）準備状況について……………資料 10
- (2) R2EC シンポジウム（12月1日）開催報告……………資料 11
- (3) Security Days Spring 2026 の後援について……………資料 12-1~12-2
- (4) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) その他

【報告事項】

- (1) Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2026 セッション企画について……………資料 13
- (2) 令和8年度協働大学院教員及び非常勤講師について……………資料 14-1~14-2
- (3) 学位プログラムオープンキャンパスの開催について（4月26日）……………資料 15
- (4) その他

(配付資料)

出席者名簿	p.3
資料 1-1 正会員入会申込書 (株式会社日本総合研究所)	p.4
資料 1-2 運営委員会委員名簿 (案)	p.5
資料 1-3 日本総合研究所 概要資料	p.6
資料 2-1 特別会員入会申込書 (巨大災害研究会)	p.9
資料 2-2 巨大災害研究会 概要資料	p.10
資料 3-1 特別会員入会申込書 (レジリエントライフプロジェクト)	p.13
資料 3-2 レジリエントライフプロジェクト 概要資料	p.14
資料 4-1 正会員入会申込書 (東急株式会社)	p.16
資料 4-2 退会届 (株式会社東急総合研究所)	p.17
資料 4-3 運営委員会委員名簿 (案)	p.18
資料 4-4 東急グループ 概要資料	p.19
資料 5-1 役員名簿 (案)	p.20
資料 5-2 幹事会委員名簿 (案)	p.21
資料 6-1 有識者会員創設及び審議手続きの整理について	p.22
資料 6-2 コンソーシアム規約 (案)	p.23
資料 7 令和 8 年度活動計画 (案)	p.31
資料 8 令和 8 年度キャリアマッチングデー開催概要 (案)	p.32
資料 9-1 Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2026 セッション募集要領 (抜粋)	p.33
資料 9-2 TGSW セッション企画提案書	p.34
資料 10 2025 年度 R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム ポスター	p.38
資料 11 2025 年度 R2EC シンポジウム 開催報告書	p.39
資料 12-1 Security Days Spring 2026 後援名義使用申請書	p.42
資料 12-2 Security Days Spring 2026 後援名義使用承諾書	p.46
資料 13 TGSW セッション企画アジェンダ (英語版)	p.47
資料 14-1 令和 8 年度協働大学院教員一覧	p.48
資料 14-2 令和 8 年度非常勤講師一覧	p.49
資料 15 学位プログラムオープンキャンパス ポスター	p.50

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第20回運営委員会 出席者名簿

(機関種別50音順、敬称略、網掛けは欠席)

機関	委員	出欠	委員代理	出欠	陪席者	出欠
エヌ・エフ・ラボラトリーズ	代表取締役 小山 覚	出席 (オンライン)			研究開発部 研究開発担当 担当部長 橋本 明将	出席 (オンライン)
セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文	出席			IS研究所 研究戦略部 主務 小松原 康弘	出席
東急総合研究所	エグゼクティブ・フェロー 真城 源学	欠席				
東急プロパティマネジメント	BC推進センター センター長 狩矢 淳雅	欠席	BC推進センター 次長 松本 幸一	出席 (オンライン)	BC推進センター 課長代理 大野 洋一	出席 (オンライン)
東京海上日動火災保険	アドバイザー 林 春男	欠席				
日本電気	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員 柳生 智彦	出席 (オンライン)				
モリタホールディングス	グループコーポレート本部 人事部 部長 明田 京子	欠席	グループコーポレート本部 人事部 人財開発課 澤 茜	出席		
NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画担当部長 池田 高志	出席 (オンライン)			広報担当 小山 晃	出席 (オンライン)
DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆					
電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	欠席	企画グループ 池邊 慎二郎	出席 (オンライン)		
日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員 安部 原也	出席 (オンライン)				
電子航法研究所	特別研究主幹 福島 幸子	欠席				
産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 蒲生 昌志	欠席	安全科学研究部門 副部門長 若林 邦彦	出席 (オンライン)	エネルギー・環境領域研究企画 室 企画主幹 西 政康	出席 (オンライン)
防災科学技術研究所	理事長 寶 馨	出席			企画部 次長 松本 拓巳	出席
					企画部研究推進課 課長 倉谷 定秋	出席 (オンライン)
					研究共創推進本部研究推進室 課長補佐 石塚 悦子	出席 (オンライン)
労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理 山際 謙太	欠席	機械システム安全研究グループ 上席研究員 岡部 康平	出席		
福島国際研究教育機構	執行役 大和田 祐二	出席 (オンライン)			人材育成推進課/研究開発支援 室 (併任) エデュケーション・ アドミニストレーター (EA) 鈴木 礼子	出席 (オンライン)
國家災害防救科技中心 (NCDR) (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li	出席 (オンライン)				
筑波大学	副学長 (研究担当) ・ 理事 遠藤 靖典	欠席			システム情報エリア支援室 室長 大貫 康司 主幹 増田 正裕 大学院教務係長 栗原 宏太 大学院教務 酒井 美和 UEA 根本 美南	出席
	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長 岡島 敬一	出席				
	システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー 面 和成	出席				

【オブザーバー】

日本総合研究所 セキュリティ統括部 部長 植村 征広
セキュリティ統括部 長田 繁幸
セキュリティ統括部 三井 健

別紙様式1 (第5条関係)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 正会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 7 年 12 月 26 日

所在地 東京都品川区東五反田 2丁目18番1号

機関名 株式会社日本総合研究所

代表者 (自署又は公印) 植村 征広

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）

〔令和8年 月 日版〕

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
小山 覚	株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ	代表取締役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	株式会社東急総合研究所	エグゼクティブ・フェロー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	アドバイザー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
三井 健	株式会社日本総合研究所	セキュリティ統括部	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
明田 京子	株式会社モリタホールディングス	グループコーポレート本部 人事部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
池田 高志	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画担当部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	特別研究主幹	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
蒲生 昌志	国立研究開発法人産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
◎ 寶 馨	国立研究開発法人防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
大和田 祐二	福島国際研究教育機構	執行役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	理事・副学長（研究担当）	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
面 和成	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)

◎は議長を示す

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

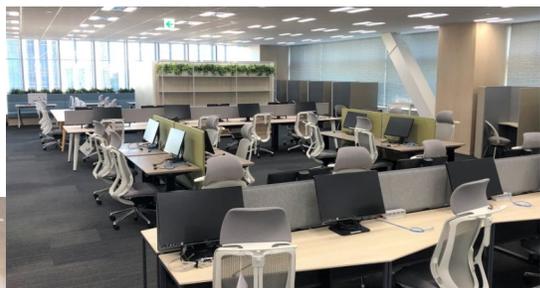
株式会社日本総合研究所 とは

What's JRI

- ✓ 正式名称：株式会社日本総合研究所
- ✓ 創立：1969年2月20日
- ✓ 従業員数：3,786名 ※2025年3月末現在
- ✓ 資本金：100億円
- ✓ 売上高：2,994億円 ※2025年3月期
- ✓ 本社拠点：東京/品川区東五反田(大崎駅,五反田駅)
大阪/大阪市西区土佐堀(肥後橋駅,中之島駅)

[東京本社]

執務室
エリア



食堂
エリア



SMBC 三井住友フィナンシャルグループ

【連結純利益1兆1844億円】 ※2025年3月期

- 三井住友銀行
- 三井住友カード
- SMBC信託銀行
- 三井住友ファイナンス&リース
- SMBC日興証券
- SMBCコンシューマーファイナンス
- 三井住友DSアセットマネジメント



SMBCグループの1社として
シンクタンク・コンサルティング・ITソリューション
3つの機能を有する総合情報サービス企業です

株式会社日本総合研究所

SMBC 三井住友フィナンシャルグループ

連結総資産	306.3兆円
-------	---------

2025年3月末時点

グループ会社

- 三井住友銀行
- SMBC信託銀行
- SMBC日興証券
- 三井住友カード
- SMBCコンシューマファイナンス
- 三井住友ファイナンス&リース
- 三井住友DSアセットマネジメント
- など

グループIT会社

日本総研ホールディングス 2024年4月設置



日本総研
The Japan Research Institute, Limited



3,786名
2025年3月末時点

事業内容

- システム開発・運用業務
- サイバーセキュリティ
- データサイエンス
- 先端技術
- シンクタンク業務
- コンサルティング業務

◀

2026年4月
再編予定

NKSOL 日興システムソリューションズ

事業内容

- 証券・金融システムに関するシステムインテグレーションサービス
- システムソリューションサービス

日本総研が取り組むセキュリティ業務

今を取り扱う

SOC&CSIRT 業務

主要業務

- ・セキュリティ監視／分析
- ・脆弱性,マルウェア解析
- ・SOCの監視範囲
拡大計画



セキュリティ・アナリスト
インシデント・ハンドラ

1～2年後を取り扱う

対策業務

主要業務

- ・セキュリティソリューションの
調査／検証
- ・SOC監視システムの開発
- ・脆弱性診断



ペネトレーションテスター
セキュリティ・エンジニア

3～5年後を取り扱う

企画／研究業務

主要業務

- ・技術研究, 脅威調査
- ・規程, ポリシー変革
- ・教育, イベント講演企画



セキュリティ・リサーチャー
セキュリティ・インストラクタ

別紙様式2（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 特別会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 8年 1月 20日

所在地 兵庫県姫路市新在家本町 1-1-12 兵庫県立大学内

機関名 巨大災害研究会

役職 会長

氏名（自署）

木村 玲 次

設立趣意書

「巨大災害研究会 ～SR ガバナンスの実現～」

発起人： 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 木村 玲欧
 東京大学大学院 情報学環 教授 酒井 慎一
 筑波大学 システム情報系 教授 遠藤 靖典
 富山大学 都市デザイン学部 准教授 井ノ口 宗成

（背景）様々な災害が頻発化する近年では、南海トラフ地震、首都直下地震、千島海溝地震等の発生確率が高まりつつあり、さらには大規模噴火の発生が切迫する現状に直面しており、深刻な被害は不可避である。他方で、少子高齢化や人口減少により、社会のみならず自然環境までもが荒廃・脆弱化している。そのため、個別の能力向上や技術開発だけでは災害への脆弱化を止めることが出来ず、「社会や組織、個人のレジリエンス能力を継続的に向上させるためのガバナンス」の必要性が、これまで以上に高まっている。

（SR ガバナンスの必要性）東日本大震災をふりかえれば、伊勢湾台風以降に整備されてきた災害対応法制、阪神・淡路大震災以降に強化してきた災害対応体制では、十分に乗り越えることが出来ず、大規模な被害とその後の応急・復旧・復興に大きな課題を残した。来たるべき巨大災害を乗り越えるためには、社会・組織・個人のレジリエンス能力を継続的に向上させるためのガバナンスへと発展させ、国家としての災害対応体制と災害対応法制における総合的な社会の仕組み変革が急がれる。つまり、Sustainable Resilience (SR) を改めて見直し、新しいガバナンスとしての SR ガバナンスを事前対策・事後対応において早急に確立・浸透させなければならない。

（災害対応体制の課題）広域大規模災害においては、応援受援が前提となるものの、業務手順の標準化が十分でないために、資源を効果的かつ相互に運用できていない。また、災害対策本部運営手順が共通化されていないために、複数市町村・複数都道府県をまたいだ事案について国が十分な調整機能を果たせていない。また、応援自治体のみならず、様々な組織からの応援受援が活発化していながらも、支援調整機能の担い手育成とそのノウハウが不足しているために、円滑な協働対応ができていない。

（災害対応法制の課題）伊勢湾台風以降、応急期に関する法律の整備は進んできているが、巨大災害の特異性を理解した法適用については検討が不十分である。また、復興期においては、東日本大震災を事例とした様々な施策の検証は道半ばである。さらには、復興計画が復興事業の迅速化と同義として捉えられているため、当事者の意見が復興に十分に反映されているかは疑問である。

（災害対応体制・法制の検討）東日本大震災の教訓を受け、それぞれの課題解決は検討され、個別技術を磨くことは進んでいるものの、さらに個別課題の解決を進展させなければならないし、それらの課題や解決策を体系的に整理し、防災・減災知として利活用できる資源とするための検討の場が必要である。

（研究会の目的）「巨大災害研究会」では、「社会や組織、個人のレジリエンス能力を継続的に向上させるためのガバナンス」を科学的に解明し、体系的な枠組みを構築することで、新たな学問を確立することを目指す。

（研究会のスタンス）南海トラフ地震の発生は 2035±10 年と言われており、我々に残されている時間は最短でわずか数年しかない。本研究会では 3 年後をめどとし、「社会や組織、個人のレジリエンス能力を継続的に向上させるためのガバナンス」に必要な要件を明確化し、学の確立を目指した提言をとりまとめる。

研究会名：巨大災害研究会 ～SR ガバナンスの実現～

設立の経緯

これまで、災害対応を中心に議論を行ってきた3つの研究会を発展的に統合し、それらの議論を継続させながら、新たな減災知の創出をめざして、ここに新研究会を立ち上げる。

① 災害対応研究会→Joint Seminar 減災（共同代表：河田・林）

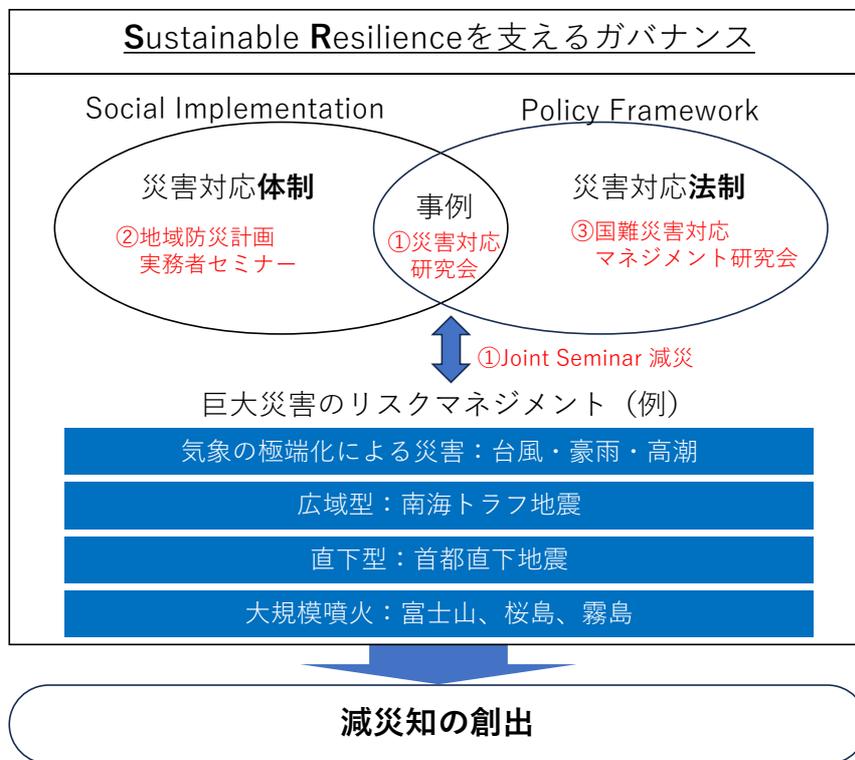
1995年阪神・淡路大震災直後の土木学会関西支部緊急対応分科会以降、災害対応研究会、Joint Seminar 減災と名称および一部体制を変更し、災害過程の体系的な理解の確立を目指して2023年で29年目を迎えた。

② 地域防災計画実務者セミナー（代表：林）

自治体の防災担当職員に対し、都市防災・地域防災についての理解を深め、京都大学防災研究所巨大災害研究センターを中心に、1995年阪神・淡路大震災発生以降に毎年開催し、2016年までに21回を開催した。

③ ICS推進研究会→国難災害対応マネジメント研究会（会長：武田、副会長：林）

ICS推進研究会では、産官学民で標準的な危機対応体制の構築をめざし、計26回の研究会を実施し、その後、国難災害対応マネジメント研究会と名称および一部体制を変更し、計13回の研究会を開催した。



新研究会の位置づけと枠組み

研究会の進め方

1. 災害対応体制の標準化・共通化に向けた実装検討
2. 災害対応法制の体系整理と政策枠組みの検討
3. 巨大災害に潜在する特異事象の把握と対策検討
4. 体制と法制が融合したガバナンスの実現と減災知の創出
5. その他、必要と認められる事項

研究会の開催案

1. 時期：年2回（半年に1回）程度の開催を目途とする
2. 場所：首都圏・関西圏で交互に実施

研究会体制案

会 長：兵庫県立大学 環境人間学部 教授 木村 玲欧
副 会 長：東京大学大学院 情報学環 教授 酒井 慎一
筑波大学 システム情報系 教授 遠藤 靖典
幹 事：公益財団法人日本法制学会 理事長 澤野 次郎
新潟大学 危機管理本部 危機管理センター 教授 田村 圭子
事務局長：富山大学 都市デザイン学部 准教授 井ノ口 宗成
企 画：東北大学 災害科学国際研究所 准教授 佐藤 翔輔
防災科学技術研究所 災害過程研究部門 副部門長 鈴木 進吾
特別顧問：関西大学 特別任命教授 河田 恵昭
京都大学 名誉教授 林 春男
福島学院大学 副学長 武田 文男

*研究会の企画については、会長・副会長・事務局長・企画において議論する。必要に応じて、幹事及び特別顧問に意見を求める。

別紙様式2（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 特別会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当プロジェクトは、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和8年2月24日

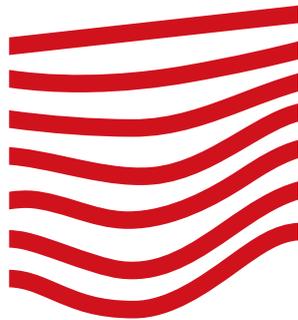
所在地：東京都中央区日本橋兜町5番1号 兜町第1平和ビル3階

プロジェクト名：レジリエントライフプロジェクト

役職：主催 I-レジリエンス株式会社 代表取締役社長

氏名（自署）： 小林 誠

どんなリスクも乗り越え、
もっと豊かになる100年へ。



**RESILIENT
LIFE
PROJECT**

レジリエントライフプロジェクトは、自然/社会/個人に起因するあらゆるリスクに備え、困難への適応力・回復力・成長力を高めながら、より豊かな毎日の実現を目指す取り組みです。

RESILIENT LIFE PROJECTとは？



令和サバイバル
養成CAMP
BY RESILIENT LIFE PROJECT

くらしのなかに
防災ニッポン

RESILIENT LIFE PROJECTとは？

レジリエントライフプロジェクトは、自然災害のリスクをはじめ、社会に起因するリスク、そして個人に起因するリスクに至るまで、あらゆるリスクが生み出す困難を乗り越えるための「レジリエンス」を高め、より豊かな生活の実現を目指す取り組みです。

それぞれ起因するリスクは違っても、個人を起点にあらゆる困難を乗り越えるためのレジリエンスを日常生活から高めることは、個人の意識向上による自助と、自治体・企業連携による共助の力を高め、結果として自然災害に対する対応力の底上げにもつながると考えています。

MEMBER

以下の企業・団体が、本プロジェクトの協力・共創パートナーとして、取り組みを検討・推進していくことを表明しています。

 <p>確かな科学で、しなやかな社会を共創する I-Resilience</p> <p>I-レジリエンス株式会社</p>	 <p>TIGER</p> <p>タイガー魔法瓶株式会社</p>	 <p>TOKYO MARINE NICHIDO 東京海上日動</p> <p>東京海上日動火災保険株式会社</p>
 <p>NIPPON PAPER GROUP</p> <p>日本製紙グループ</p>	 <p>クレシア CRECIA</p> <p>日本製紙クレシア株式会社</p>	<p>生きる、を支える科学技術 SCIENCE FOR RESILIENCE 防災科研</p> <p>NIED 国立研究開発法人防災科学技術研究所</p>
 <p>マイナビ</p> <p>株式会社マイナビ</p>	 <p>MRI 三菱総合研究所</p> <p>株式会社三菱総合研究所</p>	<p>読売新聞</p> <p>株式会社読売新聞東京本社</p>
 <p>MISAWA</p> <p>ミサワホーム株式会社</p>	 <p>GeoTechnologies</p> <p>ジオテクノロジーズ株式会社</p>	 <p>SCIENCE CRAFT</p> <p>株式会社サイエンスクラフト</p>
 <p>文化放送 FM91.6 / AM1134</p> <p>株式会社文化放送</p>	<p>・HAKUHODO・</p> <p>株式会社博報堂</p>	 <p>X (Twitter Japan株式会社)</p> <p>※参画企業である株式会社博報堂とのコラボレーションで、サービス開発を推進します</p>
<p>LINEヤフー</p> <p>LINEヤフー株式会社</p>	<p>人と自然を、おいしくつなぐ</p>  <p>はごろもフーズ</p> <p>はごろもフーズ株式会社</p>	

COMMUNITY



東京都多摩市

※プロジェクトへの参画を希望される企業・団体は[お問い合わせ](#)からご連絡願います。

別紙様式1（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 正会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 8年 2月26日

所在地 東京都渋谷区南平台町5番6号

機関名 東急株式会社

代表者（自署又は公印） 取締役社長 堀江 正博



別紙様式3 (第5条関係)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 退 会 届

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、令和 8年 2月28日をもって、下記の理由により貴コンソーシアム
を退会いたしたく、お届けいたします。

理由：

東急グループ内参画企業変更のため。

令和 8年 2月17日

所在地 東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビル

機関名 株式会社東急総合研究所

役職 研究部 担当部長

氏名 (自署) 大東 一裕

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）

〔令和8年 月 日版〕

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
小山 覚	株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ	代表取締役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	東急株式会社	社長室 政策グループ	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	アドバイザー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
三井 健	株式会社日本総合研究所	セキュリティ統括部	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
明田 京子	株式会社モリタホールディングス	グループコーポレート本部 人事部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
池田 高志	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画担当部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	特別研究主幹	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
蒲生 昌志	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
大和田 祐二	福島国際研究教育機構	執行役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	理事・副学長（研究担当）	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
面 和成	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)

◎は議長を示す

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

東急グループの概要

東急グループは、1922年の「日黒蒲田電鉄株式会社」設立に始まり、2025年3月31日現在、214社7法人(株式上場会社4社)で構成され、交通事業、不動産事業、生活サービス事業、ホテル・リゾート事業を事業分野としています。

当社はその中核企業として、「まちづくり」を事業の根幹に置きつつ、長年にわたって、皆さまの日々の生活に密着したさまざまな領域で事業を進めています。

東急グループ主要企業



東急不動産

不動産事業

- 東急不動産(株) (*2)
- (株)東急コミュニティー(*2)
- 東急プロパティマネジメント(株) (*1)
- 東急リパブル(株) (*2)
- 東急建設(株) (*2)
- 世紀東急工業(株) (*2)
- 東急不動産ホールディングス(株) (*2)
- 東急ジオックス(株) (*1)



東急電鉄

交通事業

- 東急電鉄(株) (*1)
- 伊豆急行(株) (*1)
- 上田電鉄(株) (*1)
- 東急バス(株) (*1)
- (株)じょうてつ (*1)
- 仙台国際空港(株) (*1)
- 東急テクノシステム(株) (*1)

東急(株)

太字は株式上場会社
 * 1: 当社子会社
 * 2: 当社関連会社および
 その傘下会社

ホテル・リゾート事業

- (株)東急ホテルズ(*1)
- 東急ホテルズ&リゾート(株) (*1)
- (株)スリーハンドレッドクラブ(*1)
- 東急リゾート&ステイ(株) (*2)
- 東急リゾート(株) (*2)



東急ホテルズ&リゾート

生活サービス事業

- (株)東急百貨店 (*1)
- (株)ながの東急百貨店 (*1)
- (株)東急ストア (*1)
- (株)東急モルズデベロップメント (*1)
- 東急カード(株) (*1)
- (株)東急レクリエーション (*1)
- イツ・コミュニケーションズ(株) (*1)
- (株)東急キッズベースキャンプ(*1)
- 東急セキュリティ(株) (*1)
- (株)東急エージェンシー (*1)



東急百貨店

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム役員名簿（案）

〔令和8年 月 日版〕

役職名	氏名	任期
会長	寶 馨	令和7年4月1日～令和9年3月31日
副会長	甘利 康文	令和7年4月1日～令和9年3月31日
副会長	岡島 敬一	令和8年4月1日～令和9年3月31日

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

- 2 会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。
- 5 役員任期は、原則2年とし、再任は妨げない。
- 6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。
- 7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム幹事会委員名簿（案）

〔令和8年 月 日版〕

幹事名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第10条第4項(1)
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	第10条第4項(2)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第10条第4項(2)
面 和成	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第10条第4項(4)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	理事・副学長（研究担当）	第10条第4項(5)

◎は議長を示す

オブザーバー名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	dx推進部 アドバイザー	オブザーバー

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第10条第4項 幹事会は、次の委員で構成する。

- (1) 会長
- (2) 副会長 2名
- (3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名
- (4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
- (5) その他、会長が指名する者 若干名

有識者会員創設および審議手続きの整理について

筑波大学岡島

背景・主旨

現行のコンソーシアムの会員区分（正会員・特別会員）は法人・団体を中心として構成されており、個人の専門家が関与するための仕組みは設けていない。今後、必要に応じて個人の専門的な知見を取り入れられるよう、新たに「有識者会員」区分を設けたい。

あわせて、会員資格（入会・退会等）に関する審議手続きについても、総会または運営委員会で扱う形に整理することで、手続きをより明確にするものである。

改定案（概要）

① 「有識者会員」の創設

対象：「会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた個人」とする

扱い：議決権は付与せず、助言・協力を主たる役割とする

② 入会・退会等の審議手続きの整理

・全ての会員区分（正会員・特別会員・有識者会員）について、入会・退会等の審議は総会または運営委員会で行うものとする。

規約改定案

別紙参照

以上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（案）

〔 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定 〕

改正 平成30年 7月19日総会
令和 2年10月16日運営委員会
令和 3年 6月 8日総会
令和 4年 3月 7日運営委員会
令和 7年 3月 6日運営委員会
令和 7年11月 6日運営委員会
令和 8年 月 日

第1章 総則

（名称）

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を Resilience Research and Education Promotion Consortium（「R²EC」と略す。）とする。

（目的）

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

（事業）

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- （2）筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- （3）セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- （4）コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- （5）その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

（会員）

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的及び前条の事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体、行政機関等（以下「機関等」という。）をもって構成し、会員の種別は、次のとおりとする。

- （1）正会員 前条の事業を行う機関等、及び筑波大学
- （2）特別会員 前条の事業の一部を行う、筑波大学以外の大学、行政機関、及び会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた団体等
- （3）有識者会員 会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた個人

また、正会員・特別会員~~(以下、「会員」という。)~~を別表により明記するものとする。

(入会・退会手続き)

第5条 入会を希望する**正会員・特別会員機関等**は、次の入会申込書をコンソーシアム会長あてに提出するものとする。

(1) 正会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム正会員入会申込書(別紙様式1)

(2) 特別会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム特別会員入会申込書(別紙様式2)

なお、退会の際は、別紙様式3により、会長あてに申し出るものとする。

(除名)

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、除名することができる。

(1) 本規約又は関連する定めに反したとき。

(2) 本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。

(3) その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。

2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

(役員)

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

2 会長は、正会員の中から互選により選出する。

3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。

4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。

5 役員任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。

7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。

第4章 組織

(総会)

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

2 総会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、総会の議長となる。

4 総会は、次の委員で構成する。

(1) 正会員の代表者

(2) その他、**正会員のうち**会長が指名する者

5 総会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の改廃

(2) 会長及び副会長の選任

(3) 会員の入会又は退会、除名に関する事。

(4) 第3条に規定する事業の調整及び運営に関する事。

(5) その他、コンソーシアムの運営に関し必要な事。

6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるもの

とする。

(運営委員会)

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、運営委員会の議長となる。
- 4 運営委員会は、次の委員で構成する。

(1) 正会員の代表者

(2) その他、**正会員のうち**会長が指名する者

- 5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項について審議を行う。
- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項~~(3)の特別会員に関する事~~、(4)及び(5)に係る審議については、第10条に規定する幹事会に付託することができるものとする。

(幹事会)

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、幹事会の議長となる。
- 4 幹事会は、次の委員で構成する。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

(3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名

(4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー

(5) その他、**正会員のうち**会長が指名する者 若干名

- 5 幹事会は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項~~(3)の特~~
~~別会員に関する事~~、(4)及び(5)に掲げる事項について審議を行う。

(代理出席)

第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事会の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事会に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。

- 2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事会に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事会の構成員の行為とみなす。

(議決)

第12条 総会、運営委員会及び幹事会は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 総会、運営委員会及び幹事会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第13条 総会、運営委員会及び幹事会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与)

第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。

- 2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

(事務)

第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雑則

(報酬)

第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

附 則

この規約は、令和2年10月16日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年6月8日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、令和4年3月7日から施行し、令和3年10月13日から適用する。

附 則

この規約は、令和7年3月6日から施行する。

附 則

この規約は、令和7年11月6日から施行する。

附 則

この規約は、令和 年 月 日から施行する。

別表（第4条関係）

○ 正会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	エヌ・エフ・ラボラトリーズ株式会社 セコム株式会社 株式会社東急総合研究所 東急プロパティマネジメント株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 日本電気株式会社 株式会社モリタホールディングス NTT 宇宙環境エネルギー研究所
団体	一般財団法人 DRI ジャパン
研究機関	一般財団法人 電力中央研究所 一般財団法人 日本自動車研究所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 福島国際研究教育機構 National Science and Technology Center for Disaster Reduction
大学	国立大学法人 筑波大学

○ 特別会員

区 分	機 関 等 名 称
大学等	
行政機関	
団体等	

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 正 会 員 入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 年 月 日

所在地 _____

機関名 _____

代表者（自署又は公印） _____

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 特別会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 年 月 日

所在地 _____

機関名 _____

役職 _____

氏名（自署） _____

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 退 会 届

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、令和 年 月 日をもって、下記の理由により貴コンソーシアム
を退会いたしたく、お届けいたします。

理由：

令和 年 月 日

所在地

機関名

役職

氏名（自署）

	コンソーシアム関連				学位プログラム関連
	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム	その他	
令和8年4月		第35回幹事会 オンライン			募集要項公開 4月下旬 オープンキャンパス 4/26(日)
5月				キャリアマッチング デー 5/25(月) 午後 筑波大学	
6月	第9回総会& 参画機関見学会 対面/ハイブリッド				
7月		第36回幹事会 オンライン			7月期入試 前期課程入試(推薦) 後期課程入試(一般・社会人)*R8.10月入学
8月					8月期入試 前期課程入試(一般・社会人) 後期課程入試(一般・社会人)
9月					
10月		第37回幹事会 オンライン	単独シンポジウム ハイブリッド	TGSW2026 10/1(木)~2(金) 筑波大学	
11月	第21回運営委員会& 参画機関見学会 対面/ハイブリッド				
12月					
令和9年1月					1~2月期入試 前期課程入試(一般・社会人) 後期課程入試(一般・社会人)
2月		第38回幹事会 オンライン			
3月	第22回運営委員会& 参画機関見学会 対面/ハイブリッド		巨大災害研究会との 合同シンポジウム ハイブリッド		

コンソーシアムと筑波大生の交流企画

「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー」

開催概要（案）

イベント名	筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 令和8年度キャリアマッチングデー
主催・共催	主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 共催：筑波大学システム情報工学研究群
開催目的	コンソーシアム参画機関から筑波大学の学生に対してインターンシップや就職に関する情報提供を行い、これを通じて両者が交流を深め、マッチングに繋がることを目的として開催する。
開催日時	令和8年5月25日(月) 13:30-16:30
開催場所	筑波大学 筑波キャンパス（茨城県つくば市天王台1-1-1） ※詳細は後日連絡いたします
プログラム	① 全体セッション： 各機関によるインターンシップ・就職情報のショートプレゼン ② 個別相談： 各機関のブースにて、インターンシップ・就職に関する個別相談を実施 ※ 参加機関数に応じてプログラムを変更する場合があります
参加者	【筑波大学】 <u>全大学院生・学類生</u> 特に、以下の学生： ・システム情報工学研究群に所属する大学院生（リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学） ・関連する学部生（社会工学、工学システム、情報科学等） 【参画機関】 <u>コンソーシアム参画機関及びその関連会社</u> (各機関の人事担当者、コンソーシアム委員ほか)

Tsukuba Global Science Week 2026 セッション募集要項

令和 7 年 12 月 22 日

TGSW 事務局（広報局国際会議推進部門）

Tsukuba Global Science Week (TGSW)2026 のセッション企画提案について以下のとおり募集します。

I. Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2026 概要

目的:TGSW は、本学が主催する国際会議として、下記の活動を促進する。

- (1) 国際的な研究者ネットワークの構築
- (2) 国、文化、宗教、研究領域を超えた「トランスボーダーな」対話
- (3) TSUKUBA の地を発信源とする高い研究レベルに裏付けされた「地球規模課題」の解決策の提案

日程:令和 8 年 9 月 29 日(火)~10 月 3 日(土)(5 日間)

実施形式:オンラインおよび対面(※1)

対面会場:筑波大学大学会館(部屋が不足する場合は大学会館周辺の教室等も使用する)

使用言語:(原則として)英語

主催:筑波大学

※1 実施形式について

9 月 29 日(火)、30 日(水)	オンラインセッション ※対面セッションとの開催時間の重複を避けるため、オンラインは原則としてこの 2 日間。やむを得ない場合は 10/1~3 での実施も可。
10 月 1 日(木)~3 日(土)	対面セッション ※対面とオンラインを併用したハイブリッド形式を含む

II. 募集期間/提出先

Excel 様式「TGSW2026 セッション企画提案書」を E-mail にて提出。募集要項及び企画提案書は、教職員専用サイトからダウンロード可能。

<https://ksp.sec.tsukuba.ac.jp/wp/?p=274188>

提出期限:令和 8(2026)年 2 月 13 日(金)17 時

提出先:TGSW 事務局(広報局国際会議推進部門)

E-mail: TGSWsecretariat@un.tsukuba.ac.jp

III. 募集の概要

1. 申請資格について

申請可能な者は、本学に所属する教職員とする。

なお、「2. 募集区分」のうち、「学生企画」のセッションについては学生だけでなく本学の教職員も共同オーガナイザーとすること。また、本学に籍を持たない研究者は、本学の教職員をセッションオーガナイザーとして応募すること。

2. 募集区分

区分	採択 予定数	要件	実施 形式	支援経費 (上限)
メインセッション(含:開会式 基調講演)※	1	・TGSW のメイン企画にふさわしく、かつ集客が見込める テーマ設定であること ・10月1日(木)に対面形式で開催すること ・招聘者のうち1名に、開会式の基調講演を依頼する	対面	100万円
CiC ジョイント セッション	5	・CiC 協定校と共同で実施するセッション	対面	35万円
			オンライン	10万円
研究学園都市 ジョイントセッ ション	3	・筑波研究学園都市に立地する研究機関と共同で実施する セッション	対面	35万円
			オンライン	10万円
学生企画	3	・本学の教職員を共同オーガナイザーとすること ・この区分に限り、日本語のみでのセッション実施も可	対面	10万円
			オンライン	5万円
ポスターセッシ ョンA(含:海外 招聘者)	1	・海外から渡日参加する招聘者を含むこと ・他の区分のセッションの一環として実施するポスター発表 については、他の区分で応募すること	対面	35万円
ポスターセッシ ョンB(主に本 学の学生対象)	4	・主として本学の学生(含:連携大学院)を対象とする ・他の区分のセッションの一環として実施するポスター発表 については、他の区分で応募すること	対面	3万円
自由テーマ	25	・TGSW で議論するにふさわしい内容であれば、いかなる テーマでも可	対面	30万円
			オンライン	10万円

※過去のメインセッションテーマ

- ・Beyond Globalization(2017)
- ・第1回 T-PIRC シンポジウム:植物回復力とイノベーションのための先端大学フォーラム(2017)
- ・第2回 T-PIRC シンポジウム:次世代食料システム開発による持続可能な未来に向けて(2018)
- ・台湾国立成功大学-筑波大学コンソーシアムセッション:グローバル化の後で進む課題創造(2020:オンライン)
- ・つくばスーパーサイエンスシティー・シンポジウム(2022)

TGSW2026セッション企画提案書

【提出期限:2026年2月13日(金)】

企画案提出・問合せ先 TGSW事務局(広報局 国際会議推進部門)
E-mail: TGSWsecretariat@un.tsukuba.ac.jp

(注)緑色のセルは入力必須です。

I 希望するセッション区分

7 自由テーマセッション

II セッションオーガナイザー情報

(II-1)セッションオーガナイザー

- ・学外の研究機関と共同でセッションを実施する場合でも、セッションオーガナイザーは本学に籍を置く教職員(含:連携教員)、学生に限ります。
- ・採択結果は原則としてセッションオーガナイザーに通知します。
- ・複数のオーガナイザーがいる場合、代表者1名をセッションオーガナイザーとし、その他のオーガナイザーに関する情報は「共同オーガナイザー」の欄に記載してください。
- ・学生がオーガナイザーの場合は、本学の教員を共同オーガナイザーに含めてください。
- ・所属機関に略称がある場合でも正式名称でご記入ください。

氏名	日本語	面 和成		
	英語	Kazumasa OMOTE		
所属	日本語	筑波大学システム情報系		
	英語	Institute of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba		
職名	日本語	教授	その他(右に記入)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 学位プログラムリーダー
	英語	Professor	その他(右に記入)	Chair, Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering
連絡先	E-mail	omote@risk.tsukuba.ac.jp		
	内線	5277		

(II-2)共同オーガナイザー(いる場合のみ)

- ・共同オーガナイザーが2人以上いる場合は、枠を追加してご記入ください。
- ・所属機関に略称がある場合でも正式名称でご記入ください。

氏名	日本語	岡島 敬一		
	英語	Keiichi OKAJIMA		
所属	日本語	筑波大学システム情報系		
	英語	Institute of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba		
職名	日本語	教授	その他(右に記入)	システム情報工学研究群長
	英語	Professor	その他(右に記入)	Dean, Degree Programs in Systems and Information Engineering
連絡先	E-mail	okajima@risk.tsukuba.ac.jp		
	内線	6435		

Ⅲ セッション情報

企画されているセッション情報について記入ください。

(Ⅲ-1) セッションの実施形式

- ・本項目の会場希望は現時点での意向調査であり、実際の割り当てはセッション企画決定後に調整します。
- ・各会場の詳細は別紙1「大学会館会場一覧」でご確認ください。
- ・部屋の数に限りがあるため、出来る限り第5希望まで記入してください。

セッション区分	7 自由テーマセッション (自動入力)	
形式	ハイブリッド	
第1希望の会場	9.第6会議室(定員28)	・オンライン形式の場合は記入不要。 ・選択肢以外の会場で実施を希望する場合は備考欄に記載してください。
第2希望の会場	8.第5会議室(定員28)	
第3希望の会場	7.第3会議室(28-60)	
第4希望の会場		
第5希望の会場		
対面参加予定者数	30人	・関係者、発表者、聴衆を含む
備考		

(Ⅲ-2) セッション実施希望日時

■オンライン形式の場合

- ・オンライン形式のセッションの実施時間帯に指定はありません。

第1希望の日時		: ~ :	記入例:14:00~17:00
第2希望の日時		: ~ :	
備考			

■対面形式(ハイブリッド含む)の場合

- ・対面形式のセッションの実施時間帯は、原則として「午前:10:00~12:30」、「午後:14:00~17:00」の中で設定してください。複数の時間帯を選択することも可能です。
- ・選択した時間帯の中で、希望する開始・終了希望時間を記入ください。

第1希望の日時	10月2日(金)	14:00 ~ 17:00	・10月1日(木)午前は開会式のため、セッションは設定できません。
第2希望の日時	10月2日(金)	10:00 ~ 12:30	
第3希望の日時	10月1日(木)	14:00 ~ 17:00	
備考	上記で表示できない設定を希望する場合は、備考欄に記入ください。		

(Ⅲ-3) セッション概要

- ・採択決定後に、TGSWの公式サイトに掲載しますので、参加者を意識した記述をお願いします。

セッション名(日)	学際的リスク・レジリエンス工学の進展
セッション名(英)	Progress in Interdisciplinary Risk and Resilience Engineering
キーワード (英語で5つまで)	Risk, Resilience, Collaborative Graduate School, Comprehensive Interdisciplinary Fields
セッション概要 (日本語) ※200-300字	現代社会にはあらゆるところに多くの「リスク」が潜んでいる。そして「レジリエンス」とは、トラブルが発生した際に、すばやく、しなやかに立ち直る力のことである。この「リスク」と「レジリエンス」を専門的に学べる大学院プログラムは国内外でも限られており、本リスク・レジリエンス工学学位プログラムは其中でも早期から取り組んできた先駆的なコースである。「協働大学院方式」を採用し、企業や研究機関と連携しながら、高度な専門知識と実践的なスキルを兼ね備えた人材の育成を目指している。前身であるリスク工学専攻の設立から25周年という節目を迎えるにあたり、その総括として、多様な研究分野による話題提供を行う。

<p>セッション概要 (英語) ※100-150ワード</p>	<p>In contemporary society, numerous risks lurk in every aspect of our daily lives. Resilience refers to the ability to recover quickly and flexibly when disruptions or troubles occur. Graduate programs that allow students to study “risk” and “resilience” in a specialized and systematic manner are limited both in Japan and abroad. Among them, the Risk and Resilience Engineering Degree Program is one of the pioneering courses that began addressing these topics at an early stage. The program adopts a Collaborative Graduate School System, working closely with companies and research institutions to cultivate professionals equipped with advanced expertise and practical skills. As the predecessor program, the Risk Engineering Department, marks its 25th anniversary, we will present topics from a wide range of research fields as a comprehensive reflection on its achievements to date.</p>
---	--

(Ⅲ-4) セッションタイムテーブル

・セッションの進行案をタイムテーブル形式で記入してください。

<p>14:00 -14:20 Topic talk #1(リスク・レジリエンス基盤分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>14:20 -14:40 Topic talk #2(情報システム・セキュリティ分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>14:40 -15:00 Topic talk #3(環境・エネルギーシステム分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>15:00 - Break</p> <p>15:10 -15:35 Topic talk #4(都市防災・社会レジリエンス分野), Dr. Wen-Ray SU (National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR), Taiwan)</p> <p>15:35 -16:00 Topic talk #5(都市防災・社会レジリエンス分野, 国際ワークショップ紹介), ”International Training Workshop on Disaster Risk Reduction Innovation” Introduction, Dr. Wei-Sen LI (National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR), Taiwan)</p> <p>16:00 -16:05 Closing & Group photo</p> <p>16:05 -16:45 Poster Session 大学院生, 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p>
--

(Ⅲ-5) 当該企画のアピールポイント

・学内審査に使用します。箇条書きで、簡潔にお書きください。

<p>筑波大学大学院「リスク・レジリエンス工学学位プログラム(博士前期課程・博士後期課程)」は、学外に置くコンソーシアムを運営母体とした「協働大学院方式」を取り入れた、社会的な要請をよりスピーディーに教育課程に反映できる他に類を見ない大学院教育プログラムである。学際的にリスク・レジリエンス工学を専門的に学べる大学院プログラムは国内外でも限られており、本学位プログラムは其中でも早期から取り組んできた。前身であるリスク工学専攻の設立から25周年という節目を迎えるにあたり、その総括として、運営母体であるレジリエンス研究教育推進コンソーシアム(Resilience Research and Education Promotion Consortium, R2EC)参画機関の台湾國家災害防救科技中心(National Science and Technology Centre for Disaster Reduction, NCDR)より2名の専門家を招聘するとともに、博士後期課程学生ならびに博士研究員による各研究分野について話題提供を行う。加えて、博士前期課程学生によるポスターセッションも実施する。</p>

AIや通信技術などのデジタル革新は、災害対応をどう変えるのでしょうか？
本シンポジウムでは、産官学民の共創による『防災DX』の最前線を紹介します。
国家レベルの構想から、SNSやアプリを活用した情報発信、消防指揮の支援
など、現場における革新まで、安全・安心な社会を築く取り組みに迫ります。
技術の実装の現状や課題、そしてこれからの可能性について、参加者とともに
考えます。

日時

2026年3月3日(火)
13:30～16:50

会場

ビジョンセンター東京虎ノ門
5階会議室(501C)／オンライン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-4-7 (東京メトロ日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅直結)

参加
無料

▶ 参加お申込みはこちらから
<https://forms.gle/DuZCpjAtCT3EFLaG6>

申込締切 2026年3月2日(月)



■ プログラム

開会挨拶 13:30～13:35

責 馨 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長／防災科学技術研究所 理事長

第1部：講演 13:35～14:55

基調講演 **「産官学民共創防災DXで目指す防災立国」**

13:35-14:15 白田 裕一郎 氏 防災科学技術研究所 社会防災研究領域長／総合防災情報センター長
筑波大学 教授(協働大学院) AI防災協議会／防災DX官民共創協議会 理事長

話題提供 1 **「インターネットサービスを活用した災害に負けない持続可能な社会の実現」**

14:15-14:35 安田 健志 氏 LINEヤフー株式会社 サステナビリティ推進CBU CSRユニット 災害支援推進マネージャー

話題提供 2 **「消防指揮を高度化する現場活動支援システム」**

14:35-14:55 山田 晃久 氏 株式会社モリタホールディングス モリタATIセンター Eラボ長

第2部：パネルディスカッション 15:20～16:40

テーマ**「安全・安心をもたらす防災DX」**

登壇者：第1部講演者 井ノ口 宗成 氏 立命館大学 政策科学部 教授

モデレーター：岡島 敬一 氏 筑波大学 システム情報工学研究群長

総括・閉会挨拶 16:40～16:50

木村 玲欧 氏 巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間学部 教授



白田 裕一郎 氏



安田 健志 氏



山田 晃久 氏



井ノ口 宗成 氏



岡島 敬一 氏

主催 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム、巨大災害研究会

後援 RESILIENT LIFE PROJECT

問合せ先 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局 (筑波大学システム情報エリア支援室) ✉ r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

本シンポジウムは、セコム科学技術振興財団「令和7年度 学術集会および科学技術振興事業助成」の支援を受けて開催されます。

2026年1月7日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局

2025年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム 「空と宇宙の技術で支える、地域のレジリエンス」開催報告

1. はじめに

2025年12月1日、2025年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム「空と宇宙の技術で支える、地域のレジリエンス」を、筑波大学東京キャンパスおよびオンライン（Zoom）のハイブリッド形式で開催しました。

総合司会是小松原康弘氏（セコム株式会社 IS 研究所 研究戦略部／コンソーシアム運営委員）が務め、3本の講演とパネルディスカッションを実施しました。民間企業、研究機関、大学などから130名（対面30名、オンライン100名）の参加があり、活発な議論が交わされました。



2. 第1部 講演

開会挨拶はコンソーシアム幹事の岡島敬一氏（筑波大学 システム情報工学研究群長）が行い、第1部では防災・減災に資する観測技術の基盤、技術を活用したシステムと戦略、そして現場での社会実装の事例について、それぞれの立場から講演がありました。

「衛星リモートセンシングとレジリエント社会」

講演者：木下 陽平 氏（筑波大学 システム情報系）

衛星リモートセンシング技術、特に合成開口レーダー（SAR）とその応用技術 InSAR を活用し、災害前後の地表変化や浸水域、地殻変動を広域かつ高精度で把握する取り組みを紹介しました。SAR は昼夜観測可能で雲の影響を受けないため、防災・減災に有力な手段ですが、観測頻度やノイズ、解析の自動化など課題もあります。今後は観測頻度向上、AI 解析、専門外の利用者にも分かりやすい情報提供の工夫により、予兆把握や迅速な災害対応への貢献が期待されます。



「事前防災を支える空のインフラと持続可能な地域社会」

講演者：酒井 直樹 氏（防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門）



災害前から備える『事前防災』の重要性を示し、ドローン・衛星・IoT を活用したモニタリングによる迅速な被害把握と孤立防止の取り組みを紹介しました。空のインフラは、平時には橋や道路などの小さな変化を捉え、災害時には被災状況を即座に把握し、さらに物資や情報を運ぶ新しい道として地域を支える仕組みです。課題は通信インフラの脆弱性、ドローンの耐候性、衛星データ解析の迅速化であり、今後は AI 解析や自律運航技術、レジリエント IoT システムの構築が求められます。

「離島の生活を、空から支える ～平時・災害時の物資輸送～」

登島 敏文 氏（鹿児島県瀬戸内町 保険福祉課 へき地診療所/

元 奄美アイランドドローン(株)代表取締役)

奄美大島・瀬戸内町では JAL との共同出資でドローン運航会社を設立し、離島における平時の生活物資輸送から災害対応までを担うサービスを実現しています。物流効率化に加え、地域活性化や持続可能なまちづくりにも貢献しています。一方、離島であるがゆえの通信インフラ制約により高コストな衛星通信に頼っており、今後は LEO 衛星や HAPS による通信環境改善が重要です。



3. 第2部 パネルディスカッション「空と宇宙の技術で支える、地域のレジリエンス」

岡島氏の進行のもと、第1部登壇者に加え、大谷謙仁氏（福島国際研究教育機構 (F-REI)）をパネリストに迎え、議論を行いました。

大谷氏からは、F-REI が推進する過酷環境での災害対応を目指したロボット・ドローンのコア技術開発と社会実装への取り組みの紹介がありました。



続くパネルディスカッションでは、以下のポイントが確認されました。

- ・衛星で広域を監視し異常を検知、詳細確認はドローンで行うなど、空・宇宙技術をうまく組み合わせて活用することが重要。
- ・課題：衛星の誤検出回避・観測頻度向上、ドローンの自律飛行と耐候性、コスト低減。
- ・災害時対応だけでは持続的な運用が難しいため、平時から活用でき、災害時にスムーズに切り替えられる仕組みとビジネスモデルが必要。
- ・「自律」「平時／災害時」がキーワード。人の判断力と技術の融合がレジリエンス強化の鍵。



最後に、コンソーシアム会長の實馨氏（防災科学技術研究所理事長）より閉会挨拶をいただき、盛況のうちに会が締めくくられました。



4. おわりに

参加者からのアンケートでは、空・宇宙技術の災害対応への可能性に大きな期待が寄せられる一方、技術面やコスト面の課題解決への関心が示されました。F-REI の取り組みや離島での物流実証など、実践的な事例に高い評価と継続への期待があり、官民連携や広報強化の必要性も指摘されました。総じて、技術進化と社会実装に向けた議論継続を望む声が多く寄せられました。

【参考資料】参加者からのコメント（一部）

1	デジタル技術に共通することですが、完全な保証は難しいところがあり、災害時にどう活用するか、広く社会受容がなされることを期待します。
2	マスコミ（特に NHK）に、シンポジウムのアナウンスをすると良いかと思います。
3	とても期待する一方、課題が多く、技術・コスト面でどのようなブレークスルーが考えられるのか、興味深く拝聴しました。
4	大変勉強になりました。ありがとうございました。パネルディスカッションにありました、有時（災害時）における自律ロボットのあり方について深掘りする機会があればと思います。
5	F-REI の HEDC は応援参加しておりましたので、大変興味深かったです。
6	自身の業務に活用できるわけではありませんが、一番興味を持ったのは F-REI の取り組みの WRS2025 でした。原発対応で苦慮したが故、過酷環境ロボティクスという研究をはじめられ、できるだけ早く実現化するために競技形式でドローンチャレンジを開催するという、素晴らしい取り組みだと思います。今後も続けられ、一日も早く実用化できることを期待しています。また、国にはこれらの取り組みにもっと支援してもらいたいものです。
7	雲隠れや雨天でも災害状況が確認できる技術が便利だと思いました。衛星画像とドローンを併用すれば速やかな災害時対応が可能だと思いました。
8	私の業務ではインフラに対する防災で衛星リモートセンシングの活用を課題としています。パネルディスカッションで討論されていた課題は弊社でも課題としている内容と一致していましたので、まだまだこれからなのだなと実感しました。今後も最新情報にアンテナを張って活用法について考えていきたいと思いました。
9	離島でのドローンの活用、JAL に技術を指導してもらい、町だけで運用できるようにする取り組みは、すばらしいと感じました。有事だけでは使えないが、平時も使っているのだから、有事でも対応できると感じました。
10	SAR データにより、マクロな地盤状況が効率的に把握できることが分かった。衛星、航空機、UAV をうまく組み合わせた情報取得により、より効率的・高度な地表状況を把握し、災害の防止と対応に利用したいと感じた。UAV の大型化により、物流手段としての活用もできそうだと感じた。
11	合成開口レーダーの活用、海溝型地震の前兆としての地表面のズレ移動動向にも活用できれば良いと思いました。雲は透過するとのことでしたが、海水はどうなのですか？
12	すべてを衛星やドローンでやるのではなく、衛星、ドローン、その中間の HAPS など様々なセンサを組み合わせ、足りない部分を補うことで目的を達成することが重要ではないでしょうか。また、今のセンサの機能や性能が足りないということであれば、どのくらいの性能や機能が必要であるということをセンサ開発者へ示すことが必要で、ニーズ視点での議論も必要でしょう。研究者は OSSE で、センサへの要求をきちんと示すことが、今後のセンサ側の発展には必要です。また、衛星の観測時間間隔の問題もコンステレーション化がありますし、災害時には国際災害チャーターなどの取り組みも強化されつつあると思いますので、災害対応にはもっと広い視点、細かい視点を持つ（虫の目、鳥の目、衛星の目）ことが、必要かと思います。衛星も小型化することで、費用も下がりますし、打ち上げコストも下がりますので、民間の参入も今後盛んになるのではないのでしょうか？官と民をうまく使い分けて、それらを利用していくことも重要でしょう。今後もこのようなシンポジウムで議論されることを期待します。

2026年1月7日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

会長

寶 馨 様

株式会社ナノオプト・メディア

代表取締役社長 大嶋 康彰

[公印省略]

Security Days Spring 2026【大阪・福岡・名古屋・東京】 後援名義使用申請書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨今の働き方改革などにおいて、インターネットの重要性、またそれに伴うセキュリティ対策の重要性が叫ばれて久しい中、サイバー攻撃/標的型攻撃などによる重大な情報漏洩事故は依然として後を絶ちません。一般の企業活動に用いる情報システムに対して、これまで以上に強固なセキュリティ対策が求められているのはもちろんのこと、重要インフラの制御システムからAI、IoTなどのインフラも含めて、幅広い分野でセキュリティ対策が益々必要となっています。

「Security Days Spring 2026」は大阪・福岡・名古屋・東京にて開催を決定いたしました。本イベントは、情報セキュリティ対策に特化した専門イベントとして、関連情報を網羅して紹介し、その最新の対策を共有する場として、2013年の初開催から規模を年々拡大し、累計約20万人のご来場者をお迎えし本年で14回目の開催となります。本イベントの開催においては、独自の視点からもメッセージを発信し、マーケットにとって大きな発展と議論の場となるよう、プログラム内容やテーマについて企画を進めております。

つきましては、『Security Days Spring 2026』に対しまして、貴団体にご後援の名義を賜りたく、ここにご依頼申し上げます。なお、本依頼につきましては、貴団体に金銭的な対価を求めるものではないことを申し添えます。本依頼につき、ご承諾をいただける場合には、下記本件連絡先までメールにてご返信を願えればと存じます。本イベントが、情報セキュリティ対策の重要性を広く共有し、更なるビジネスの発展とオープンな議論の場となれば幸いです。

敬具

記

添付書類:

- Security Days Spring 2026 開催概要
- Security Days Spring 2026 後援名義使用承諾書

以上

<本件に関する事務連絡先>

株式会社ナノオプト・メディア 担当:渡邊

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-5 Uni-works 新宿御苑 3階

TEL: 03-6258-0578 / 080-5437-6005 E-mail: hidwatan@f2ff.jp

開催概要

名 称	Security Days Spring 2026 Security Days - Automotive 2026 ※名古屋会場のみ
開 催 日	【大阪】 :2026年3月10日(火) カンファレンス&展示会 【福岡】 :2026年3月12日(木) カンファレンス&展示会 【名古屋】:2026年3月18日(水)~19日(木) カンファレンス&展示会 【名古屋】:Security Days - Automotive 2026年3月19日(木) カンファレンス&展示会 【東京】 :2026年3月24日(火)~27日(金) カンファレンス&展示会
会 場	【大阪会場】:コングレコンベンションセンター(グランフロント大阪 B2F) 大阪府大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 北館 B2F 【福岡会場】: ONE FUKUOKA CONFERENCE HALL (6F) 福岡県福岡市中央区天神 1-11-1 ONE FUKUOKA BLDG.6F 【名古屋会場】:JPタワー名古屋 ホール&カンファレンス (KITTE 名古屋 3F) 愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-1 【東京会場】:JPタワーホール&カンファレンス 東京都千代田区丸の内 2-7-2 JPタワー (KITTE 4F)
主 催 ・ 運 営	株式会社ナノオプト・メディア
後 援 団 体 (申請予定)	<全開催共通>: 一般社団法人愛知県情報サービス産業協会、一般社団法人 ICT-ISAC、一般社団法人医療ISAC、一般社団法人京都府情報産業協会、一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会、一般社団法人日本クラウド産業協会、一般社団法人ソフトウェア協会、一般社団法人サイバーリスク情報センター、一般社団法人高度 IT アーキテクト育成協議会、一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター、一般社団法人首都圏産業活性化協会、一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会、一般社団法人情報セキュリティ関西研究所、一般社団法人情報処理安全確保支援士会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人情報通信技術委員会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般社団法人セキュア IoT プラットフォーム協議会、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人長崎県情報産業協会、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人日本 Web 協会、一般社団法人クラウドサービス推進機構(CSPA)、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス、一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会、一般社団法人日本シーサート協議会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター一般社団法人日本ハッカー協会、一般社団法人 Fintech 協会、一般社団法人和歌山情報サービス産業協会、一般財団法人インターネット協会、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会、一般財団法人全国地域情報化推進協会、一般財団法人日本サイバーセキュリティ人材キャリア

	<p>支援協会、一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター、一般財団法人日本データ通信協会、一般財団法人日本情報経済社会推進協会、特定非営利活動法人 ITC 近畿会、特定非営利活動法人 ITC ちば経営応援隊、特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会、特定非営利活動法人滋賀県情報基盤協議会、特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム、特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所、特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会、特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所、特定非営利活動法人日本 Android の会、特定非営利活動法人日本システム監査人協会、特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、ISACA 名古屋支部、特定非営利活動団体ビジネスシステムイニシアティブ協会 (BSIA)、京都コンピュータシステム事業協同組合、技術研究組合制御システムセキュリティセンター、電力 ISAC、東海情報通信懇談会、日本カード情報セキュリティ協議会(JCDSC)、日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)、フィッシング対策協議会、迷惑メール対策推進協議会、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム、ISACA 福岡支部、公益財団法人福岡県中小企業振興センター、一般社団法人宮崎県情報産業協会・宮崎 DX コンソーシアム、一般社団法人熊本県情報サービス産業協会、一般社団法人地域セキュリティ協議会、佐賀県高度情報化推進協議会、公益財団法人かごしま産業支援センター、公益財団法人大分県産業創造機構、公益財団法人佐賀県産業振興機構、北九州情報サービス産業振興協会、福岡エレコン交流会、公益財団法人宮崎県産業振興機構、くまもとクロスインノベーション協議会、公益財団法人佐賀県産業振興機構さが産業ミライ創造ベース、長崎県サイバーセキュリティ研究会、一般社団法人福岡県情報サービス産業協会、日刊工業新聞社</p> <p><大阪・福岡・名古屋・東京開催>:特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会</p>
<p>構 成</p>	<p>基調講演、主催者枠講演、スポンサー講演、展示会</p>

講演、展示テーマ	<p>標的型攻撃対策、クラウドセキュリティ、ファイアウォール/UTM、ソーシャルメディア対策、ウイルス対策/スパム対策、ドメイン認証、情報漏洩対策、認証/ID 管理、マネージドセキュリティ、DDos 対策、フィッシング対策、リモートアクセス/VPN、IoT セキュリティ、重要インフラ、サイバー訓練・演習、脆弱性対策、インシデントレスポンス/CERT/SOC、メールセキュリティ・誤送信防止、P マーク/ISMS/法令の動向、スマートデバイスセキュリティ、AI によるセキュリティ対策、ランサムウェア対策、技術標準化、データフォレンジック・アーカイブ、マイナンバー対策、監視・検知、個人情報保護、ビッグデータとセキュリティ、その他セキュリティ関連製品/サービス</p>
来場者対象者	<ul style="list-style-type: none"> ■ユーザー企業 経営者/役員、経営企画部門、情報システム部門、システム企画部門、セキュリティ管理部門、総務/管理/購買部門 ■製造業 製品開発部門、セキュリティ担当部門 ■インフラ産業 電力・ガス・水道・鉄道等の重要インフラ事業者、セキュリティ担当部門 ■通信事業者/ISP/データセンター事業者・システム運用部門・システム設計部門 ■政府・官公庁・自治体 ■インテグレーター/商社 など
来場者予定数	<p>【大阪開催】 :約 1,000 名 【名古屋開催】:約 1,000 名 【東京開催】 :約 7,000 名 【福岡開催】 :約 1,000 名 ※セッション延べ、展示会含む</p>
入 場 料	無料(登録制)
公式Webサイト	<p>(1 月下旬リニューアル OPEN 予定) <Security Days 実績> https://f2ff.jp/event/secd</p>

2026年 2月 27日

株式会社ナノオプト・メディア
代表取締役社長 大嶋 康彰 宛

Security Days Spring 2025【大阪・福岡・名古屋・東京】 後援名義使用承諾書

2026年 1月 7日に申請がありました、標記の件につきまして、後援名義使用を承諾いたします。

団体名： レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 公印
省略

代表者名： 寶 馨

代表者肩書き： 会長

【ご担当者連絡先】

ご担当者名： 酒井 美和

部署・お役職等： 事務局

e-mail： r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

URL： ※Web サイト内にリンクを貼らせていただきます。
https://r2ec.jp/

〒305-8573
ご住所： 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学システム情報エリア支援室内

電話番号： 029-853-4975

※ご承認いただきました際には、お手数をお掛けいたしますが2026年1月30日(金)を目途に
担当渡邊(hidwatan@r2ff.jp)宛までメールにてお送りください。

※団体表記、URLなどはSecurity Days Spring 2026サイト内に反映されます。

Session Agenda for Tsukuba Global Science Week 2026 (Draft)

Venue: University Hall, University of Tsukuba

Date: Oct. 2 (Fri.) PM or AM, or Oct.1 (Thu.) PM

Session Title: Progress in Interdisciplinary Risk and Resilience Engineering

Scope: In contemporary society, numerous risks lurk in every aspect of our daily lives. Resilience refers to the ability to recover quickly and flexibly when disruptions or troubles occur. Graduate programs that allow students to study “risk” and “resilience” in a specialized and systematic manner are limited both in Japan and abroad. Among them, the Risk and Resilience Engineering Degree Program is one of the pioneering courses that began addressing these topics at an early stage. The program adopts a Collaborative Graduate School System, working closely with companies and research institutions to cultivate professionals equipped with advanced expertise and practical skills. As the predecessor program, the Risk Engineering Department, marks its 25th anniversary, we will present topics from a wide range of research fields as a comprehensive reflection on its achievements to date.

Program: (Draft)

14:00 -14:20

Topic talk #1 (Risk and Resilience Core Studies): PhD student or PhD fellow, Master's / Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering, University of Tsukuba

14:20 -14:40

Topic talk #2 (Information Systems and Security): PhD student or PhD fellow, Master's / Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering, University of Tsukuba

14:40 -15:00

Topic talk #3 (Environmental and Energy Systems): PhD student or PhD fellow, Master's / Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering, University of Tsukuba

15:00 - Break

15:10 -15:35

Keynote #1 (Urban Disaster Prevention and Social Resilience): TBD, National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR, Taiwan)

15:35 -16:00

Keynote #2 (Urban Disaster Prevention and Social Resilience): “International Training Workshop on Disaster Risk Reduction Innovation”, TBD, National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR, Taiwan)

16:00 -16:05

Closing & Group photo

16:05 -16:45

Poster Session: Master's course students, Master's / Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering, University of Tsukuba

令和8年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 協働大学院教員一覧

整理番号	ふりがな氏名	所属先・職名	筑波大学職名 (任用年月日) (発令開始年月日)	大学院担当		
				新規継続の別	研究指導 授業担当の別	担当科目(単位数)
1	あべ げんや 安部 原也	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 主任研究員	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論(1.0)ほか
2	うすだ ゆういちろう 臼田 裕一郎	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 社会防災研究領域 領域長 ※国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域 総合防災情報センター長及び防災情報研究部門長を兼務	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
3	かとう かずひこ 加藤 和彦	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 再生可能エネルギー研究センター 太陽光システムチーム 主任研究員	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I(2.0)ほか
4	さかい なおき 酒井 直樹	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門 副部門長 上席研究員	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
5	たはら きよたか 田原 聖隆	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ ラボ長	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
6	ふじわら ひろゆき 藤原 広行	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究主監	教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I(2.0)ほか
7	おかべ こうへい 岡部 康平	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 上席研究員	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
8	きたじま そう 北島 創	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 自動走行評価研究グループ グループ長	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (令和5年5月1日)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論(1.0)ほか
9	さとう としひさ 佐藤 稔久	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 人間行動研究グループ (兼務 研究戦略企画部連携推進企画室) グループ付(兼務 連携主幹)	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
10	しまおか まさき 島岡 政基	セコム株式会社 IS研究所 デジタルプラットフォームディビジョン 主幹研究員	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	サイバーレジリエンス演習(1.0)ほか
11	ずし やすゆき 頭士 泰之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (令和4年3月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
12	うえの つよし 上野 剛	一般財団法人 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 ENIC研究部門 上席研究員	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (令和7年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
13	ひえぬき しゅんいち 稗貫 峻一	一般財団法人 電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員	准教授(協働大学院) (令和8年4月1日) (令和8年4月1日)	新規	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I(2.0)ほか

* 平成31年4月1日～客員教授、令和2年4月1日～教授(協働大学院)

** 平成31年4月1日～客員准教授、令和2年4月1日～准教授(協働大学院)

令和8年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 非常勤講師一覧（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関）

（令和8年2月27日現在）

整理 番号	ふりがな 氏 名	所属先・職名	筑波大学職名 (任命日)	大学院担当	
				新規 継続 の別	担当科目(単位数)[担当時間数(h)]
1	あまり やすふみ 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	リスクと安心の科学哲学特論(1.0) [15]
2	やぎゆう ともひこ 柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
3	アルザメリフサム ムスリム ハントウーシュ ALZAMILI HUSAM MUSLIM HANTOOSH	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 自動走行評価研究グループ 研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	ヒューマンファクター特論(1.0) [3]
4	あおやま ひさえ 青山 久枝	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
5	ふくしま さちこ 福島 幸子	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 特別研究主幹	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
6	あおい しん 青井 真	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 研究領域長	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
7	いづか さとし 飯塚 聡	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門 上席研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
8	ふじた えいすけ 藤田 英輔	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 副領域長	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
9	まえだ たかひろ 前田 宜浩	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 地震津波複合災害研究部門 主任研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
10	やまぐち さとる 山口 悟	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター 上席研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
11	うたがわ まなぶ 歌川 学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 安全科学研究部門 持続可能システム評価研究グループ 主任研究員	非常勤講師 (令和8年4月1日)	継続	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0) [6]
12	まつくら こうじ 松倉 広治	株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ 研究開発部 システム&セキュリティ担当 主査	非常勤講師 (令和8年4月1日)	新規	Webアプリケーションセキュリティ(1.0) [15]
13	おおわだ ゆうじ 大和田 祐二	福島国際研究教育機構 執行役	非常勤講師 (令和8年4月1日)	新規	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]

世の中を、**リスク**で診る。
レジリエンスで、未来を看る。

RESILIENCE

RISK



リスク・レジリエンス工学 学位プログラム
 Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering

あなたの個人情報はスマホ経由で全世界へとつながれ、
 あなたの暮らしは、道路・水道・電気・ガスなどのライフライン頼み。

あなたの家は約 2,000 以上の活断層が走る地震列島に建ち、
 その日本は、大きな環境問題を抱える、地球という惑星の一部です。

現代社会にひそむ無数の「リスク」。

有事からしなやかに復旧するための「レジリエンス」。

時代が待望するこの分野で学び、自らの手で、未来を創り出してみませんか？

筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
リスク・レジリエンス工学学位プログラム
オープンキャンパス

2026. **4/26** 日

場所：総合研究棟 B 7・8 階

一部、オンライン中継を予定しております。詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>

リスク・レジリエンス工学 検索